

R5年度英語教育リーディングスクール推進計画

北九州市立ひびきの小学校

英語教育リーディングスクール推進委員会

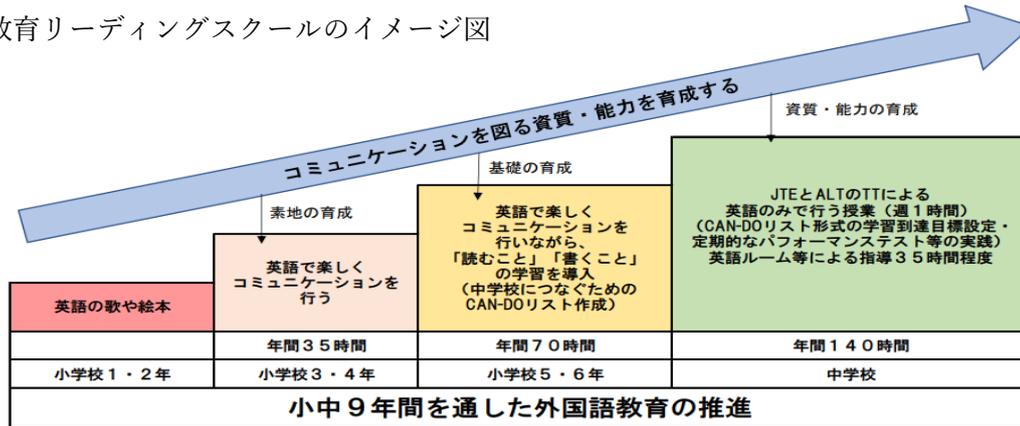
【英語教育リーディングスクールの概要】

1. 英語教育推進指定校の研究内容

○概要

小学校1年生から中学校3年生までの英語科学習が円滑につながり、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を通して児童生徒の英語力やコミュニケーション能力の向上についての教育課程および具体的な指導方法について研究開発を行う。

英語教育リーディングスクールのイメージ図



【ひびきの小学校英語教育リーディングスクール推進計画】

1. 研究の目的と仮説

(1) 本校の研究主題

「英語で自分の考えを積極的に伝え合うことのできる児童の育成」

～小中一貫の外国語教育の実践を通して～

(2) 研究仮説

<仮説1> 逆向きの授業設計を取り入れ、学習目標を明確にしていけば、児童の英語の力は高まるであろう。

<仮説2> 指導方法、教材・教具及び評価方法を工夫すれば、児童の英語に対する関心・意欲が増し、他者とコミュニケーションを図ろうとするであろう。

(3) 本校英語（外国語）科としての考え方

(1) 人として心身ともに成長していくこの時期に、外国人や異文化と触れることで「自分の意思を、自分の言葉で正しく伝え、相手との思いを繋ぐ」ことの大切さを感じる必要がある。

(2) 英語が単なる机上の「学習」として終わるのではなく、実際に日常生活で活用し、英語を通して他者とコミュニケーションを図る楽しさを感じることができるようになる。

(3) 英語や外国人と触れ合う機会が多ければ、児童本人による自己表現の場が広がり、自己表現能力が高まり、他者だけでなく自身をも大切にすることができるようになる。

2. 研究推進計画

(1) 令和5年度の取組の方向性について

- ・ポストコロナ社会に応じた、外国語活動や英語体験活動と含めた言語活動を徐々に増やしていく。
- ・児童生徒に育みたい力を意識した授業のイメージ（子どものゴールの姿）をもつことを重視する。
- ・「ひびきのスタンダード」の作成・実施に向けての準備期間とする。
- ・第3水曜日は英語リーディングスクール（主題研究）に関しての、研修を全職員参加で行う。

※特に今年度は次の2点を中心として、研究に取り組む。

①小学校6年間及び小中学校9年間を通してのカリキュラムの見直しと計画・立案

②学級担任の英語指導力を向上させるための効果的な授業研究・実践

(2) 具体的な取組

【1学期】

- ① 英語リーディングスクールの概要や趣旨を理解するための研修を実施する。
 - ・英語教育の在り方や英語教育リーディングスクールについて、教職員の共通理解を図る。
 - ・評価規準や評価方法（評定）について（評価と指導の一体化）の周知を行う。
- ② CAN-DO リストの作成（中学年、高学年）
 - ・教員が授業をイメージしやすくなるように、英語専科とALTが中心に作成する。
 - ・児童が授業（自分ゴールの姿）をイメージしやすくなりように、CAN-DO リストを掲示する。
- ③ 英語の歌や豆知識を全校に流し、週1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
- ④ 校内の環境整備を行う。（イングリッシュテーブル、イングリッシュボード、教室廊下掲示物等）
- ⑤ 児童教員への英語に関するアンケート調査を行う。（スクールプランの指標あり）

【第2学期】

- ① 1学期の反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動授業実践を行う。
- ② **研究授業の実践**
 - ・低中学年はオンデマンドにて、高学年は集合型にて公開授業を行う。
- ③ 英語の歌や豆知識を全校に流し、週1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
- ④ 校内の環境整備を行う。（イングリッシュボード、発達段階に応じた教室廊下掲示物等）
- ⑤ CAN-DO リストの見直し
- ⑥ 互見授業の実施、他学年、及び中学校（リーディング校）への授業見学

【第3学期】

- ① 2学期までの反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動授業実践を行う。
- ② 英語の歌や豆知識を全校に流し、毎日1回は必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
- ③ 来年度に向けての研究内容（CAN-DO リスト）及び「ひびきのタイム」の提案を行う。

(3) 令和5年度の授業内容及び取組について

◇英語で自分の考えや気持ちを伝えることができる児童生徒を育成するために、以下の取組を行う。

- ① 小学校低学年・・・異文化や外国語を学ぶ素地作り【興味関心を高め】歌や絵本、フォニックス導入
- ② 小学校中学年・・・楽しくコミュニケーションを行う素地の育成【話す聞くを中心】リアクション
- ③ 小学校高学年・・・4技能を使った基礎の育成【読み書きを含める】スモールトーク、アウトプット
- ④ 中学校・・・「やり取り」・「即興性」を重視し、目的・場面・状況に合わせて自分の考えや気持ちを伝えることができる生徒の育成【中学校英語への円滑な接続のため、CAN-DO リスト作成】

◇教育課程（令和5年度時数予定）

学年	活動名	活動時間	活動内容
1・2年生	英語体験活動	年間6時間	関連教科の時間を活用
3・4年生	外国語活動	年間35時間	外国語活動の時間（35時間）
5・6年生	外国語科	年間70時間	外国語活動の時間（70時間）
中学校1～3年生	英語科	年間140時間	週4時間

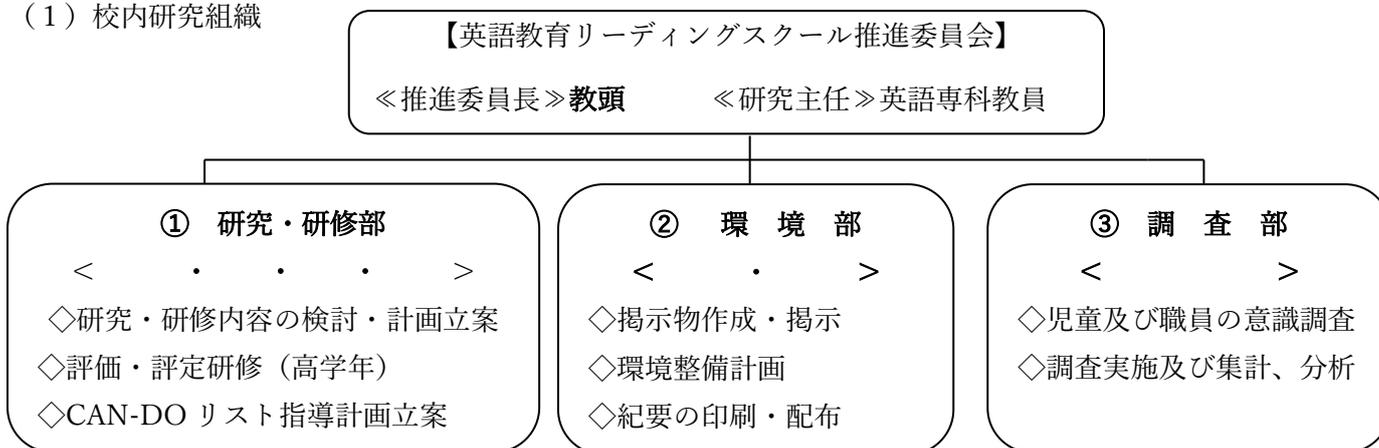
(4) 指導体制について

○英語科配置

- ・英語専科教員（研究主任）・・・研究の提案、授業方法・教材についての助言、指導案作成等
- ・英語教育推進教員・・・決定事項の学年への伝達、学年掲示物の管理、CAN-DO リストの掲示等
- ・ALT・・・授業における指導助手（1名）

3. 本校における英語教育リーディングスクール推進活動

(1) 校内研究組織



学年 部会	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
研究・研修部							
環境部							
調査部							

(2) 具体的な取組

①授業に関する取組

- 低学年については、英語絵本を読み聞かせ、英語の歌やゲームなどの活動を取り入れ、フォニックスのリスニングを含めた音を中心とした「英語に親しむ」ことを目標とする。
- 中学年については、「Let's Try①,②」を活用して、週1時間の外国語活動を通して「外国語を知る」ため「聞く」「話す」活動を実践する。
- 高学年については、週2時間の外国語を実施し、「One World Smiles5,6」を効果的に活用して、外国人や英語により慣れ親しむために「話すこと（やり取り／発表）」「聞くこと」「読むこと」「書くこと（書き取り）」の活動を実践する。

②英語への興味・関心を高めるための環境整備

- 各教室、廊下などの掲示物を充実させ、児童が英語に触れる機会を増やす。
- ICT環境（タブレット、デジタル教科書）等の積極的かつ有効的な活用を行う。
- 英語絵本、英語教具などを選定、活用する。
- CAN-DO リストの掲示

③児童及び職員の意識調査の実施及び分析

- 児童及び教員対象に行う「英語教育に関する意識調査」の内容を検討、作成する。
- 意識調査の実施、集計を行い、その結果を分析する。

(3) 各部会の活動計画

①研究・研修部

- 研究・研修内容の検討・計画立案
- 評価・評定研修
- 洞北中学校との小中連携推進
- 各学年の外国語活動の指導計画立案、準備、実践、実践記録の作成

②環境部

- 環境整備計画
- 掲示物作成・掲示

③調査部

- 児童及び教員対象の意識調査の内容検討及び作成
- 調査実施及び集計、調査結果分析

(4) 校内主題研究計画

- 第1回目：5/31（水）本年度の研究体制及び研究の方向性について提案並びに協議
- 第2回目：6/28（水）仮説1の説明、現在の各学年の取組、英語の実態調査の結果
- 第3回目：7/19（水）A研、B研、C研の授業者と授業日の検討、指導案検討
- 第4回目：9/13（水）研究主題の目的状況場面に沿った教員体験型模擬授業
- 第5回目：10/18（水）英語教育リーディングスクール推進部会
- 第6回目：11/8（水）研究授業（研究主任）
- 第7回目：12月～1月 授業実践研究
- 第8回目：3月 本年度の反省と次年度の立案

(5) 実証授業（構想）

- 1年生 C研
- 2年生 B研、C研
- 3年生 C研
- 4年生 B研、C研
- 5年生 A研、B研、C研
- 6年生 C研
- 専科 6年：研究主任【11月8日（水）】